

# UAD PLUG-INS マニュアル

ソフトウェア・バージョン 6.3.2

## Precision K-Stereo Ambience Recovery

マスタリングエンジニアの“Bob Katz”によって作られたサイコアコースティック・アンビエンス・リカバリー / ステレオ・プロセッサー

Universal Audio の Precision K-Stereo™ Ambience Recovery プラグインは有名なマスタリングエンジニアの“Bob Katz”によって考案されたサイコアコースティック・プロセッサーです。この特許を取得したユニークなプロセッサーを Universal Audio と協力し、UAD プラットホームに再現するために“Bob Katz”の K-Stereo プロセッサーは、クリアなフェイズアキュレート“アンビエンス・リカバリー”とステレオエンハンス・ツールを作るためにハース効果と他の音響心理学の原理の要素を使用しています。Precision K-Stereo は、主に2トラックのマスタリング・アプリケーションに使用するために設計され、レコーディングしたマテリアルの周囲から手がかりを抽出し、サウンドステージの周囲にアンビエンスを加え、深く、広く、サウンドのサイズを大きくすることができます。音の立体感を高めつつ、そのアルゴリズム内の明快さとソース・マテリアルの所在を向上させます。Precision K-Stereo は、独自のサウンドを持っていません。—それは混みいった、狭いサウンドのミックスに新しい命を吹き込み、ソースの初期反射音をエンハンスします。

Precision K-Stereo は、人工的なリバーブを加えることなく、ステレオ・マスターに楽器やボーカルの深さを加えたり、イメージのエンハンスを行い、ミックス・ソースのステレオ・イメージを完成させるために行う無危害のアプローチを行い、サイドとセンターのエレメントの比率を変更することが可能です。

### Precision K-Stereo スクリーンショット



図 87. Precision K-Stereo プラグイン・ウィンドウ

## 操作の概要

### アンビエンス・リカバリー

Precision K-Stereo の主な機能は、アンビエンスのリカバリーとエンハンスを行います。このプラグインは、新しいアンビエンスを加えたり、ミックスのバランスを変更することはできません。その代わりにレコーディング・ソースのアンビエンスを抽出してリカバリー、磨き、美しく仕上げます。

Precision K-Stereo は、コムフィルター、マトリックス、フェイズプロセッサー、または一般的なイメージプロセッサーで使用するような技術を使用していません。その代わりに、アンビエンスの回復プロセスには確立された音響心理学の原理を採用しています。その結果、プロのマスタリング基準を満たし、滑らかで自然、フェイズが整ったモノ・コンパチブルなサウンドを実現します。

アンビエンス・レベルとエンハンスの調整に加えてソース・マテリアルの周囲をさらにハイ/ローカット・フィルターとパラメトリック・ベルフィルターを使用してイコライジングすることができます。これらのアンビエンス・フィルターは、“ウェット”信号にだけ影響を与え、“ドライ”部分からは、独立しています。

### Primary Application

Precision K-Stereo は、前もってミックスされたステレオ素材をマスタリングする際にアンビエンスを微調整するように設計されています。一般的にマルチトラック・ミックスダウン時にアンビエンスを調整することは、そのステージでコントロールと使用可能なより高いレベルのディティールをミックス自体の中で調整します。

Precision K-Stereo はもちろんクリエイティブな使用方法としてステレオ・バスやミックスに使用することも可能です。しかし、プロセッシングは広範囲に最適化されているので、少なくともいくつかの周囲のコンテンツとミックスされており、エフェクトはレコーディング中、周囲のアンビエントに応じて個々のトラックでは微妙か効果しか得られない場合があります。

### Mid/Side Leveling

Precision K-Stereo プロセッサーは、アンビエンス・リカバリーとエンハンスを行うために MID/SIDE エンコード、デコード技術を必要としません。ただし、プラグインは、ステレオ・フィールド内でセンターからサイドのレベル・アンバランスを補正するためにマスタリング時に便利な独立した MID/SIDE レシオ・レベリング機能を備えています。

アンビエンス・リカバリー機能は、MID チャンネル・レベルが増加したときに失われるアンビエンスとスペースをリカバリーするために使用できます。(例えば、中央に配置されたボーカルや楽器を持ち上げる場合)

**コンフィグレーション** Precision K-Stereo はステレオイン/ステレオアウト・セッティングでの使用に最適化されています。しかし、プラグインはモノラルでレコーディングしたソースを、モノイン/ステレオアウト・セッティングで使用しアンビエンスのリカバリーを行うことも可能です。モノ・シグナルは、MISO として“ステレオ化”されます。

**注:** D アンビエンス・リカバリーのプロセスは、本来ステレオソースを目的としているので、モノイン/モノアウト・セッティングでの使用を意図していません。

**プリセット** Precision K-Stereo には Bob Katz によって作成されたファクトリー・プリセットが収録されています。これらのプリセットとこれらのプリセットとアプリケーション・ノートのリストは、この章の最後にあります。

## Bob Katz の blog 記事

Bob Katz は、Precision K-Stereo を使用するための興味深いヒントを Blog 記事に寄稿しています。記事は当社のウェブサイトで公開されています。(英文):

- [www.uaudio.com/blog/k-stereo-tips-and-tricks.html](http://www.uaudio.com/blog/k-stereo-tips-and-tricks.html)

## Precision K-Stereo コントロール

**コントロール  
アレンジ** Precision K-Stereo のコントロールは 4 つのセクションに分類されています。: アンビエンス・リカバリー、アンビエンス・フィルター(EQ)、ミッド/サイド、L/R ゲイン。それぞれのコントロールの詳細については、グループ化して記述されています。

### コントロール アジャスト

スイッチ

メインスイッチ(リカバリーや EQ など)の設定を切り替える場合はスイッチを切替えます。点灯しているときは、スイッチが有効な(オン)状態を意味します。



*Precision K-Stereo* スイッチ・オン(左)、オフ(右)

### ノブ

ノブ・コントロールでは、値をマウスで調整、または値をテキストで入力することができます。また、ノブの周囲にある目盛りや値をクリックするとその値にノブがジャンプします。“大きなノブ”(アンビエンス・ゲイン、ミッド/サイド、ゲイン L/R ゲイン) はノブの上にあるコントロールのラベルをクリックすると“0”に戻すことができます。

## アンビエンス・リカバリー

このセクション内のコントロールについては図 88 を参照してください。



図 88. アンビエンス・リカバリーのコントロール

### リカバリー

このスイッチは、アンビエンス・リカバリーのプロセッシングをオン/オフを決定します。概要については、287 ページの“Ambience Recovery”を参照してください。

アンビエンス・ゲイン、エンハンス・ディープ/ワイド、アンビエンス・フィルターの効果を有効にするために“リカバリー”をオンにしなければなりません。

**注:** このスイッチは、M/S ゲイン、L/R ゲイン、またはパワーコントロールには影響を与えません。

**アンビエンス・ゲイン** アンビエンス・ゲイン・ノブは、リカバリーするアンビエンスのレベルをコントロールします。デフォルトの 0dB は、名目上、または“典型的な”セッティングとして定義されます。(0dB に設定されている場合でも、アンビエンス・リカバリーは起こっています。)

リカバリーされたアンビエンスの量を調整するためにアンビエンス・ゲインを増減させてください。範囲は-20dB~+9dB までを 0.5dB ステップで使用可能です。素早く 0dB に戻るためには“0”ラベルをクリックしてください。アンビエンス・リカバリーを無効にするには“リカバリー”スイッチを使用してください。

**注:** 0 dB 以下の値はアンビエンスを取り除きません

### エンハンス

アンビエンス・リカバリー・プロセスは、“Deep”と“Wide”スイッチによって、さらに調整を行うことができます。

**注:** “リカバリー”スイッチが有効になっているときのみエンハンス機能を使用することができます。

#### Deep

このスイッチを使用時は深いアンビエンス・リカバリーを提供します。

#### Wide

このスイッチを使用時はステレオ・イメージを広げ、エンハンスします。

## アンビエンス フィルター

アンビエンス・フィルター(EQ)は、シグナルのアンビエント部分の周波数調整を行います。このコントロールはシグナルを直接的な(ドライ)部分に対しては影響を与えません。

アンビエンス・フィルターは 1 ローカット・フィルター、1 ハイカット・フィルター、シングルバンドのパラメトリック・ベルフィルターで構成されています。

**注:** “リカバー”スイッチが有効になっていない限り、アンビエンス・フィルター・セクションのコントロールは影響を与えません。

このセクションのコントロールについては、[図 89](#) を参照してください。



図 89. アンビエンスフィルター・コントロール

**EQ スイッチ** EQ スイッチは、アンビエンス・フィルターのオン/オフを決定します。“リカバー”スイッチが有効になっているときのみこのスイッチを使用することができます。

**カット・フィルター** ローカットとハイカット・フィルターは、オクターブごとに 12dB のスロープを有しています。各カット・フィルターは、独立して“オフ”ポジション(デフォルト)に設定することで無効にすることができます。

### ローカット

使用可能な範囲は 20 Hz ~ 1 kHz です。

### ハイカット

使用可能な範囲は 5 kHz ~ 20 kHz です。

**ベル・フィルター** ベル・フィルターは、周波数、ゲイン、Q(帯域幅)を独立してコントロール可能な完全なパラメトリックです。



#### ベル周波数

ベル・フィルターの中心周波数を決定します。使用可能な範囲は 150Hz ~ 10 kHz までです。

#### ベルQ

ベル・フィルターの帯域幅を決定します。使用可能な範囲は 0.5 ~ 3 までです。高い Q 値は狭いスペクトルに影響し、低い Q 値は、広いスペクトルに影響します。

#### ベルゲイン

ベル・フィルターに適用するブースト/カットの量を決定します。使用可能な範囲は ± 10 dB です。素早く 0dB に戻すにはゲインのテキストラベルをクリックしてください。

**注:** 他の 2 つのベル・パラメーター(周波数、Q)は、ベル・ゲインの値が 0 dB の場合には効果がありません。

## MID/SIDE コントロール

Mid/Side コントロールは、ステレオ・フィールド内のセンターとサイド部分のレベル調整を可能にします。アンビエンス・リカバリーがオン、または無効なときに Mid/Side を調整することができます。アンビエンス・リカバリー・プロセスは、アンビエンス・リカバリー、またはエンハンスを行うために MID/SIDE 技術を必要としないことにご注意ください。

**注:** プラグインが、モノイン/モノアウトで使用されている場合、Mid/Side コントロールは無効になります。

このセクション内のコントロールについては以下の図 90 を参照してください。



図 90. MID/SIDE コントロール

### M/S ゲイン

このスイッチは、MID ゲインと SIDE ゲイン・コントロールのオン/オフを決定します。

### MID ゲイン

MID ゲインは、ステレオ・シグナルの中央のシグナル・レベルを調整します。使用可能な範囲は-12dB ~ +6dB まで 0.1dB ステップで調整可能です。素早く 0dB に戻すには、MID のテキストラベルをクリックしてください。

### SIDE ゲイン

SIDE ゲインは、ステレオ・シグナルの両側のシグナル・レベルを調整します。使用可能な範囲は-12dB ~ +6dB まで 0.1dB ステップで調整可能です。素早く 0dB に戻すには、SIDE のテキストラベルをクリックしてください。



## アウトプットゲイン・コントロール

このセクション内のコントロールについては、下の図 91 を参照してください。



図 91. アウトプット・コントロール

### L/Rゲイン オン/オフ

左右のゲインとリンクコントロールのオン/オフをコントロールします。

### リンク

このスイッチを有効にすると両方のチャンネルに同じ値を設定することができます。左右のチャンネルに別々の値を設定したい場合、リンクを無効にします。

**注:** リンクが無効な状態から有効に変更した場合、左のゲイン値を右のゲインにコピーし、左右のゲイン値のオフセットは失われます。

### 左右ゲイン

左右の独立したゲインは、0.1dB ステップで -24dB ~ +12dB の範囲で設定可能です。素早く 0dB に戻すには左右チャンネルのテキストラベルをクリックします。

**注:** プラグインがモノイン/モノアウト・セッティングで使用されている場合、右チャンネルのゲイン・コントロールは、無効となります。

## アウトプット・レベルメーター



ステレオ/ピーク・ホールド・メーターは、プラグインのアウトプットシグナル・レベルを表示します。メーターのレンジは、-30 dB ~ 0dBs までです。シグナルのピークは、3秒間ホールドされた後にリセットされます。

## パワー

パワースイッチがオフの位置にある場合、インターフェイスのロゴが消灯している場合、プラグインの処理が無効になり、UAD DSP の使用量は低減されます (UAD-2 ロードロック有効になっていない場合)。



セッティングを変更するには、スイッチ、またはオン/オフ・ラベルを、UA ロゴをクリックしてください。

## Bob Katz 作成のファクトリー・プリセットについて

Precision K-Stereo は Bob Katz デザインのファクトリー・プリセットが含まれています。

“BK” という接頭語を持つプリセットは、Katz 氏によって作成されたセッティングです。2 つのカテゴリーがあります。“MIX”プリセットはミキシング時に使用し、“MSTR”はマスタリング時に使用するために作成されました。

### デフォルト

Precision K-Stereo を起動すると、自動的にアンビエンスのレベルを 0dB に設定したデフォルト・プリセットが設定され、すべての設定をニュートラルにします。好みに応じてアンビエンス・レベルを上下に回し、雰囲気を確認してください。残りのファクトリー・プリセットはその他の可能性を体験するために提供されていますが、他にもいくつかのコントロールがあるので、どんな状況を得ることも Precision K-Stereo では簡単です。

### BK-MSTR-Rock Tight Bass

このプリセットは、アンビエンス・レベルが 0dB、ワイド & ディープがオンになり、アンビエンス・ローカット・フィルターは 125Hz に設定され、他の楽器のサイズと奥行を増やしながら、低音楽器にタイトさを与えます。

### BK-MSTR-Rock Tight Drums

このプリセットは、アンビエンス・レベルが 0dB、ワイド & ディープがオンになり、アンビエンス・ローカット・フィルターは 125Hz、アンビエンス・ハイカット・フィルターは 10kHz に設定されています。これは、低音楽器をタイトにする(アンビエンスとしてのレベルは影響を受けません)だけでなく、パーカッションをエンハンスするために高域のアンビエンスを柔らかく、そしてボーカルや中域の楽器をエンハンスするために中域のアンビエンスもエンハンスします。

### BK-MSTR-String Ensemble

このプリセットは、アンビエンス・レベルが +1dB、ワイドはオフ、ディープがオンになっています。これは、名前が示すようにアンサンブルやソロ楽器のアンビエンスをサイドを極端に広げることなくエンハンスし、アンサンブルの小さなサイズを維持したまま豊かさと深さを加えるために非常に便利です。ステレオで作られたソロギターの(リバーブ・ルーム代わりに)ミックスにこのプリセットを試してみてください。

### BK-MSTR-Full Orchestra A

これは、デフォルトのプリセットと同じです。お好みに応じてアンビエンス・レベルを上下に回してください。オリジナル・レコーディングのリバーブの性質によって、サウンドをウォームにするためにアンビエンス EQ を加えるか、存在感を増すためにアンビエンスを加えてください。

<b>BK-MSTR-Full Orchestra B</b>	Full Orchestra A と同様ですが、ハイカット・フィルターはパーカッションをタイトにするために高域の 10kHz を柔らかく設定しています。
<b>BK-MSTR-Clear Presence</b>	オリジナル・レコーディングで、ホールやルーム等、いくつかのプレゼンスが欠けている場合、このプリセットで補うための操作を行えます。
<b>BK-MSTR-Raise Mid Instruments</b>	MID レベルを SIDE レベルやリカバリーよりもわずかに持ち上げることで、広いアンビエンスを提供しますが、MID/SIDE の比率を変更するとそのバランスじゃ失われます。
<b>BK-MSTR-Warm Ambience</b>	このプリセットは、リカバリー・セッティング全体にウォームさを加えます。
<b>BK-MIX-Big Steinway</b>	ピアノのステレオ・レコーディングで、録音の解像度を損なうことなく、楽器のサイズとボディをエンハンスするためにこのプリセットを試してください。このプリセットは、ダイレクト EQ とエンハンス EQ の異なった部分を解説します。ここではアンビエンス・チャンネルのボトムエンドと低中域を持ち上げます。それは 6 フィートのヤマハを 9 フィートのスタインウェイに変えてしまうかもしれないので、十分に気をつけてください。
<b>BK-MIX-Big</b>	このプリセットは、素早く可能性を探るためにアンビエンス・レベルを少し上げるセッティングをします。
<b>BK-MIX-Too Big</b>	極端なセッティングを示すために非常に大きく遠い、最大のアンビエンス・レベルを提供します。

K-Stereo は、Robert Katz と Digital Domain 社の商標です。

